

広島市教育センター所報

No.17
昭和59年11月

広島市教育センター
広島市東区平岡新町一丁目17番1号
〒730 電話 (082) 223-3563

一枚の蠟染ろうぞめから

比治山女子短期大学教授 佐藤 月二



この夏、中華人民共和国雲南省に旅をもち、昆明で蠟染の一枚を買った。藍地に白く染め抜いた絵柄は土俗的な香りが高く、強く私の心をとらえた。花、鳥、魚などを図案化していることは、その民族の自然との交流をよく物語っている。

この蠟染の中央に染めた植物の葉のようなものは、これこそ製作した民族が伝承している独特のものであろうと、帰国後中国の蠟染図集で調べた結果、貴州省の少数民族、苗族（ミャオ族）の作品の中に同一の模様を発見した。私の求めた一枚も恐らくこの民族の作品であろう。

貴州苗族の少女たちは7～8歳頃から絵柄の描き方を習い、嬉々として自由に蠟染に親しみ、結婚衣裳も自ら創案した蠟染を誇ると言う。若い娘さんはそれぞれ一人前の蠟染芸術家であり、その作品は今日では外人観光客注視的になっている。中国における蠟染の歴史は、遠く秦・漢の時代にさかのぼるが、その技術は少数民族の間に相伝されているの

である。彼等は今日の先進国にみられる文化を享受する機会には恵まれていないが、世界に誇り得る独特の技術を身につけているのである。

日本の農村でも、一昔前の主婦は衣食に関する多くの技術を身につけていた。私は農家の生まれで、母が多彩な技術をもっていたのをよく知っている。母は娘時代機織の名手であった。私は子供の頃、糸を染めること、綜ること、かざりに糸を通すことなどを手伝わされた。母が手織りの縞や、緋の着物で小学校に通ったのである。味噌も、醤油も、豆腐も、味噌こうじを寝かせることも、ソバを打つことも母の技術であった。今考えても、母はどれだけの生活技術をもっていたのかと計り兼ねるのである。

文明の発達とともに、この頃の人は知恵もあり、しっかりしている。しかし、本当に身についた生活技術は何も持っていないのではないかと心細い。小才があつて、真似上手で、消費だけに奔走しているようで、概ね生活技術も退化したように思う。何か人間として誇りうる身についた技術を持ってほしいものと私は苗族の蠟染を眺めながら想うのである。

誌 上 講 座

今回は、社会科と理科の講座を通しての気づきや開発教材などについて紹介します。

◆小学校社会科中学年の資料の収集と活用

主任指導主事 中土井 正彦

『地域学習』といわれている小学校社会科中学年で「適切な資料が得にくく、授業がしにくい。」ということばをよく耳にする。

次の調査を見てみよう。

- 設問 社会科の授業では、どのような勉強が楽しくできますか。

	選 択 肢	割 50 合%
ア	先生のお話を聞く勉強	10
イ	スライドやグラフなどの資料を使う勉強	28
ウ	見学に行く勉強	57
エ	参考書を使って調べる勉強	5

(標本数 4年100名 東京都内A小学校の場合)

教師にとって、資料が得にくいという問題と、児童の具体的な見学や資料を使っての学習が楽しいという傾向は、地域学習に対してひとつの示唆を与えてくれるものである。

中学年の社会科では、地域の具体的観察と資料の効果的な活用により、地域社会の①成員としての自覚、②発展を願う態度、③生活を考えようとする態度を育てることを目指している。このように、地域社会と密着した学習では、教師・児童ともに、平素から具体事象に触れて、地域素材を見る確かな目を養っておくことが重要となる。

また、資料を有効に収集するためには、教師と児童が、ともに資料の収集を行う態度が重要であり、それは、児童の学習意欲を高め、主体的学習を深めることに結びつく。さらに、これらの資料が授業過程(学習問題の把握→学習問題の追求→学習のまとめ)の各段階に正しく位置づけられて、効果的に活用されることが大切であり、それによって、児童の思考を一層高める学習展開へと発展するものである。

◆広島市内の新しい地層

指導主事 三宅 周平

昭和48年の夏、広島工業大学沼田校舎を借りて中学校の林間学校を開校した。この時、理科担当の教員が周囲の自然について解説を加える時間が設定された。

ふだん、野外学習が様々な制約のために実施できないので、この機会を十分に活用しようという意図からであったと思う。

さっそく付近を踏査すると、この校舎の敷地が堆積物から成っていることがわかった。それから10年後、この堆積物に関する調査に着手し、このたび次のようなことがわかった。

- 1 これらの堆積物は厚さ約20m程度であり、シルト・砂、れきで構成されていること。
- 2 基底れき層は古生層のれきを含有し、上部れき層は花こう岩れきが主体であること。
- 3 花こう岩を不整合に被覆すること。
- 4 化石(花粉化石等の微化石を含む)は産出しないこと。
- 5 砂の粒度分析結果から、これらの堆積物は河川堆積物の特徴が極めて強いこと。
- 6 ほとんどの地層はレンズ状を呈すること。



広島工業大学沼田校舎の露頭

今年の11月19・20日の両日、これらのことについて、現地で野外学習の講座を開設する計画である。この機会に、多くの先生方に広島市の新しい地層について認識を深めていただきたい。

教育相談室から

「友達からのけ者にされたり、いじめられたりするのですが、どうしたらよいでしょうか。」といった相談が最近増えています。そこで、いくつかの相談ケースからいじめの実態を紹介します。

○いじめられっ子

わがまま、依頼心が強い、気が弱い、自己顕示欲が強い、反抗的態度をとりやすいなどの性格特性があり、友達から異和感や反感を持たれやすいといったケースがよくみられます。

この背景としては対人関係の未熟さがうかがわれます。一方、「まじめにしているから」とか「転校して来たから」といったような理由でいじめの対象になっているケースもあります。

○いじめっ子

割合活発で生活態度にけじめがつけにくい、やや無神経さが目立つ、物事に集中できにくいといった特徴が見られます。これらの特徴の背後には欲求不満の増大やストレス解消の手段の乏しさなどが考えられますが、いじめを許容している集団内のタテの人間関係の存在も見逃がせません。



○「いじめ」への指導

いじめられっ子の場合、健全な自我と少しの辛さに我慢できる耐性の育成を促すことが必要です。

いじめっ子に対しては、いじめの表面的な現象だけを注意するのではなく、欲求不満のもとを探り、ストレスを解消する手だてを教えることが重要となってきます。また、いじめを許容している学級集団に対しては、学級全員で共通の目標を目指して頑張るような場を設定することも考えられます。

いじめの問題は決して一個人だけの問題ではなく、広い人間関係の中に生じた歪みが火山の一角として現れてきたものといえます。

いじめの問題の背後には、他人の立場を無視した自分さえよければ良いという利己的な考えがはびこりつつあることが認められます。

したがって、学級経営を進めるうえでいじめの問題に取り組むことは見逃がすことのできない重要な課題であるといえます。

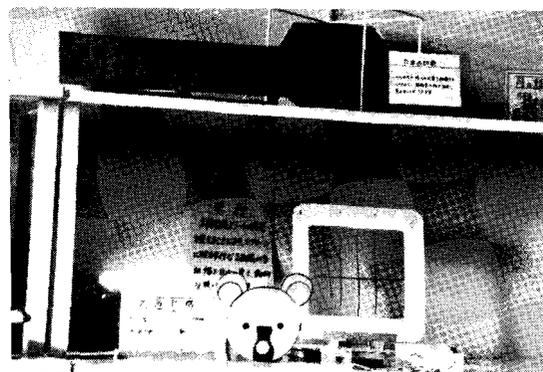
研究室(1階)紹介

研修講座のテキスト・資料・教材開発等の作品展示、随時研修等に活用できる部屋です。

研修講座に関するテキストや資料を全講座にわたり保管展示しています。

教材開発に関する作品や資料は、講座で作成したり活用したものです。学校ですぐ役立つ作品も展示しています。

研究室のもうひとつの機能として、随時研修等の話し合いの場所としての役割ももたせています。今後も研修の場所として整備をすすめていきますので十分御活用ください。



展示中の教材・教具

教育実践発表

本年度も研修講座の実施に当たって、指導者として御協力いただいた多数の方々に、それぞれ素晴らしい実践発表をしていただきました。今回は紙面の都合上、つぎの4名の方々の貴重な実践の概要を紹介します。

◆自然とのかかわりの中で生活を

広島市立北祇園幼稚園教諭

早川 栄子

最近の子供達は、生の自然に触れることが少なく、間接経験による知識のみで頭でっかちであったり、昆虫は買ってもらう物であるかのようにおもちゃにしたりする傾向がある。

そこで、教師は、幼児期にできる限り自然に触れさせ、自然に親しませ、豊かな感性の芽生えを培うよう心がけねばならない。

本園では、多くの種類の樹木、飼育動物・花だんななどの環境を生かし、次の点に留意して教育実践に努めている。

- 飼育栽培活動など豊かな直接経験を
- 子供の主体性を重視し、ゆとりある計画を
- 総合的な活動の中での展開を
- 環境への配慮と適切な言葉かけを
- 教師自身、自然に目を向け、親しむ姿勢を



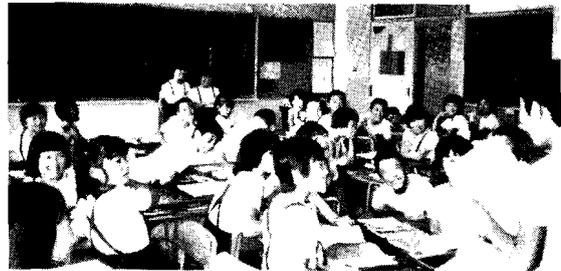
飼育動物との触れ合い

実践は遅々としたものであるが、活動を多方面から見直し、豊かな経験につながるよう励んでいる。例えば、「うさぎ、おたまじゃくしなど、もっと身近な物に」と考えている。特に、長期の観察が望まれるものについては、教師の接し方を反省し、指導に当たっては、成長の過程を身体表現したり、歌遊びを取り入れたりなどの工夫をしている。今後も、自然に目を向ける子供を育てるよう心がけていきたい。

◆ほり出しタイム

広島市立伴東小学校教諭

今村 チヨ



ほり出しタイム

「〇〇君は、私が算数で困っている時教えてくれました。〇〇さんは、一週間そうじのめあてや役割をけんかにならないように決めてくれました。〇〇君は、他の人の仕事を手伝ってくれました。」

これは週末の終りの会—ほり出しタイム—の一コマである。4人班の1人(ほり出し係)が、他の3人のよいところを汗だくでほり出し、このタイムでみんなの前に発表するのである。

自分の係がめでたく終わると次の人にバトンタッチ。次の週からは自分でも気づかなかったよいところが、他の3人によってぞくぞくほり出されるのである。

「1班は4人とも人のよいところを熱心にほり出していました。みんな燃えているみたいに必死でした。ぼくのが発表された時、心がスカーッとほくも発表したいくらいだった。」

友達の良いところをほり出そうとする大きく開いた目、自分のよいところをほり出されて思わず細めた目、友達を見直した目、みんなの目が合う時、暖かい心の通い合いを感じる今日この頃である。

◆子供の自立を育てていくために

広島市立観音中学校教諭

岡崎 憲司

学級開きの日、子供と保護者を前にして、「今朝ウンコをしてきた人、手をあげて？」と質問した。一瞬とまどいをみせながら、子供達は手をあげたが、人数は少ない。続けて生徒には「中学生として次の3つのことを実行してほしい。」と、7時までに起きること、朝食をきちんととること、ウンコをしてくることを要求した。保護者には、弁当をもたせていただくようお願いした。これが、生活点検の取り組みのスタートである。

子供達の心や体の発達のゆがみが問題にされはじめて久しい。そのことを、子供達自身に意識づけをしながら、保護者といっしょになって1日の生活のリズムを確立していくことが、子供達の自立・自律を育てていくものだと考え、ここ数年、生活点検の取り組みに力を入れてきた。

学級開きの翌日から、朝会で3つのことを調べ、その変化を評価しながら、暮会で脳の話、ウンコの旅などの学習を進めていった。

やがて、その仕事を保健委員にまかせ、取り組みを続けた。1学期の反省の中に、「はじめはしっこだけだったが、今頃は、毎朝大便がでる。」などがあった。これも取り組みの1つの成果だと考える。

2学期からは、1日の生活のリズムを確立させていくために、学習やテレビの問題も考えさせたいというねらいと、一人ひとりの生活を教師がきちんとつかみたいという願いで、個人ノートを中心に取り組んでいる。

自分の行動に責任をもてる人間、仲間とともにのびていく人間に育ててほしいと念じながら、今日も一人ひとりのノートに、返事を書いている。

◆多様化する個性の共存を積極的に認め合う学級（2学年）をめざして

広島市立舟入高等学校教諭

鶴田 秀雄

「みんな行くので（57%）」「まだ決めていない（76%）」など高校進学への動機・卒業後の進路の不明確さがみられ、また、「その時の思いによって行動する（50%）」者もあり、自己規制の弱さや高校生活に対する「現実の自己と理想との異和感（49%）」などが、校内外での行動を多様化する。しかし、それに対して家庭・学級・学校の中には、価値的に異質なものの共存を認めない動きもある。

このように迷いの中にいる生徒達と、それを取りまく周辺の不適応の状態に対して、担任としてつぎのような実践を模索している。

- 1 安心して自己表現や課題解決ができ、将来に向かって刺激されるH・Rとする。
- 2 生徒の動静の背景にある実状を明らかにし、目標を持たせ、努力して将来への可能性を徐々に実現していくよう指導をすすめる。
- 3 H・R日誌や、対話の中に表現される意見・疑問・感想に対して、より視野を広げた立場からコメントをつけ、ゆさぶる。
- 4 学級通信によって学級の動向を家庭に伝え、生徒の学校生活に対する関心と参加意欲を引き出す。
- 5 人権尊重の倫理に対する認識を学校生活の中で考えさせ、自己実現に対して他を思いやるための動機づけにする。



H・Rの時間

教育センターニュース

教養講座の御案内

- ◆講師 上智大学教授
金田 一 春 彦 先生
- ◆演題 私をはぐくんでくれたもの
- ◆日時 昭和59年12月6日(木)14:30~16:00
- ◆場所 広島市立広島養護学校屋内体育館
- ◆対象 教職員, 社会教育関係職員

~~~~~ 講 師 の 紹 介 ~~~~~

1913年, 東京生まれ。
 東京大学文学部卒業 (1937)。
 現在, 上智大学教授。文学博士。
 「日本語」「日本の唱歌」「新明解国語辞典」他, 著書多数。特に「十五夜お月さん一本居長世一人と作品」では, 毎日出版文化賞, 芸術選奨文部大臣賞, 日本児童文学学会賞を受賞。

幅広い識見と豊かな情感にあふれたお話が伺えるものと期待されます。

教員特別研修生 (昭和59年度後期)

後期は次の方々がそれぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- ◆国語科教育：檀上健二 (吉島東小学校)
研究題目：確かな漢字力を身につけさせるための効果的な指導法の研究
- ◆生徒指導：大塚守雄 (宇品中学校)
研究題目：望ましい集団を育てるための援助・指導に関する研究



教員特別研修生報告会

昭和59年度研究協力員

教育センターでは研究をすすめるに当たって, 市内の小・中・養護学校, 幼稚園の先生方に研究協力員をお願いしています。



特別研究協議会

昭和59年度研究協力員氏名

研究領域	研究協力員氏名	所属校(園)名
学級経営	山口 節子	中野東小学校
	村川 伴子	口田小学校
	浜岡 昭美	広瀬小学校
	今村 子ヨ	伴東小学校
	田坂 明	梅林小学校
	岡田 典子	天満小学校
	梶 矢文昭	長束小学校
	有田 啓子	神崎小学校
	尾形 完治	長東西小学校
	下村 博子	緑井幼稚園
	財満 山美子	矢賀幼稚園
	上馬場 智子	福木幼稚園
国語科教育	筒井 ふみ子	己斐中学校
算数科教育	藤原 芳江	可部小学校
	迫 靖恵	可部小学校
音楽科教育	梶山 卓己	川内小学校
図画工作・美術科教育	野村 典代	吉島東小学校
	浜田 昭法	清和中学校
特別活動	内藤 邦彦	黄金山小学校
障害児教育	品堀 拓望	広島養護学校

編集後記

今回は, 学級経営を中心に編集しました。御参考にしていただければと思います。